

堀 真奈美
東海大学 准教授

在宅医療継続要因の研究

近年、急性期病院における平均在院日数短縮化や病床再編が進む中、在宅医療に対する診療報酬上の優遇が行われるなど、在宅医療の促進が図られている。だが、急増するニーズや需要に対応するだけの在宅医療の供給体制や関連周辺サービスの提供体制が整備されているかという点、少なからず疑問が残る。

在宅療養支援診療所の届出状況一つをみても大きな地域差が認められ、どこの地域でも在宅療養が可能な状態とはなっていない。在宅療養の継続要因を把握するには、それぞれの地域性をふまえて検討する必要があると思われる。そこで、本研究では、都市・近郊エリアにおける在宅療養継続要因は何かを把握することを目的に二つのアンケート調査を実施した。在宅療養をとりまく環境整備が同等であるエリアに住みながら、在宅療養を選択する患者、選択しない患者が生じるとしたらその理由は何であるのかを検討した。その結果、医療ニーズの相違ではなく、在宅療養継続促進要因は家族の協力（同居、非同居を問わず）及び本人の在宅療養への希望が大きいことが明らかになった。特に同居家族がいる場合は、家族の負担軽減（経済的負担というよりは、精神的、肉体的負担）が重要であることが示唆された。